



特集 よみがえる教育勅語 教育の右傾化

教育勅語と使徒信条？

■ 光延一郎 (イエズス会 上智大学神学部)

ネットウヨと教育勅語

私は大学で、新入生向けの「キリスト教の人間観と現代社会の諸問題」という科目を担当しています。歴史認識や憲法、人権について、現政権に批判的な題材も扱うのですが、そうすると学生の中に一定数いる「ネット右翼的」考えの持ち主、すなわち歴史修正主義の言説に縛られた者がとげとげしい言葉で反論してくることがあります。北朝鮮のミサイルや中国の軍事的脅威、世界中で起こるテロの前で、愛とか自由とか平和とか、甘いことを言ってるんじゃない、

力には力で向かうのが世界の現実だ、などと…。そういう学生は、社会や歴史について、狭い経験と自己中心的な知見しか持っていないのですが、家庭で話されることやネットで見聞きしたことを信じて自国への批判を固く拒むその姿勢は、ある種「宗教的な信仰」であるかのようです。しかしそれは、キリスト教におけるような人格的な交わりを通して得られたものというより、限られた知識に頑なに凝り固まる「信仰」なので厄介です。

憲法学者の水島朝穂氏は「歴史修正主義者は、